

私らしさが原動力～挑戦を楽しむ毎日～

インタビューの概要：弁理士の仕事に興味はあるけど、実際のところどうなの？女性弁理士に仕事のやりがいからワークライフバランスまで迫ります。



今回インタビューを受けていただいたのは島原 留美子(しまばら るみこ)さん。2022年に弁理士の資格を取得。製薬会社で新薬の開発に携わったのち、前職の広島大学では、リサーチ・アドミニストレーター(URA)として、研究活動の企画やプロジェクトの運営管理を担当。現在はプラチナバイオ株式会社にて、資金調達や知的財産戦略に関わるお仕事をされています。多岐にわたるお仕事ぶりとその原点に迫りました。

-目次-

1. 弁理士を目指したきっかけ
2. 弁理士の仕事のやりがい
3. ワークライフバランス
4. これまでと今後のキャリアパス
5. 弁理士を目指す若者へメッセージ

1. 弁理士を目指したきっかけ

——学生の時に、知的財産や弁理士は知っていましたか？

大学では薬学を専攻していましたが、知的財産や弁理士という職業については、ほとんど触れる機会がなく、社会人になってから初めてその存在を知りました。当時は製薬会社に勤めることが現実的な選択肢だと考えており、他のキャリアパスについては考えていなかったです。

——どのように弁理士という仕事を知りましたか？

製薬会社で働いていたときに新薬の開発に携わり、特許を取得しようと弁理士に相談したことがありました。どういった発明なのか、細かくチェックしてくれて、こんな専門的で面白い職業があるんだと興味を持ちました。

——弁理士を目指した理由は何ですか？

友人との何気ない会話を通じてです。何か資格を持っていた方が良いだろうという流れで、弁理士が話題にあがりました。その後、弁理士の仕事がどのようなもので、どのように社会に貢献できるのかを調べていくうちに、その道を目指すことを決意しました。合格率が低い難関資格だからこそ、挑戦する価値があると感じたことを今でも覚えています。



2. 弁理士の仕事のやりがい

——現在はどういった業務を担当されていますか？

広島大学発のベンチャー企業になりますが、知財担当として業務に携わっています。具体的には、知的財産戦略の立案や、外部資金の獲得を通じたプロジェクト運営を担当しています。また、広島大学のゲノム編集イノベーションセンターにも所属しており、そちらではプロジェクトマネージャーとして、研究の進行や書類作成、知財面でのサポートを行っています。

——この仕事の面白さは何ですか？

研究の成果を社会に届けられる点にあります。特に、理系の知識を活かしながら、新しいアイデアを特許権や商標権として権利化し、事業化に結びつけるプロセスは非常に魅力的です。また、特許にしたい範囲を言葉で定義する際、微妙な表現の違いが権利の範囲を大きく変える可能性があります。そのため、特許請求の範囲をチェックする過程では細かなニュアンスまで意識して検討する必要があり、知財ならではの難しさ面白さを感じています。

——印象に残っている仕事は何ですか？

今の会社に転職して、最初の仕事として、自社の名称とロゴマークの商標登録出願に携わりました。重要だと認識はされていたものの、出願など具体的なアクションができていなかった状況で、社長から「時間がかかっても良いのでまずはチャレンジしてみしてほしい」と伝えられました。最終的に商標権を無事に取得することができたのは、弁理士としても良い経験になりました。弁理士としての最初の出願であったため、出願ソフトから出願をするときに、緊張してマウスを持つ手が震えました(笑)。



(取得された会社ロゴの商標:登録第 6769608 号)

3. ワークライフバランス

——プライベートと仕事の両立はできますか？

プライベートと仕事の両立は比較的できていると思います。今の会社は、フルリモート勤務と裁量労働制が導入されているため、プライベートの時間も確保しやすいです。忙しい時期もありますが、締め切りギリギリで作業をするのが苦手なため、計画的に業務を進めることを心がけています。

——リモートワークや裁量労働制があるということは、柔軟な働き方が可能ですか？

例えば朝に病院や役所に行き、午後から仕事をするなど、柔軟な働き方ができていると思います。仕事の効率も高めることができますし、プライベートの時間も大切にすることができるため、とても良い環境で仕事ができます。

——休暇は取れますか？

育児休業やその他の休暇についても、非常に取りやすい環境が整っています。会社としての理解があり、サポートが充実しているため、安心して休暇を取得することができます。特に育児をしながら働く上でも大きな助けになっています。



4. これまでと今後のキャリアパス

——事務所や企業、独立などの選択肢がある中で、現在の働き方を選んだ理由は何ですか？

大学発ベンチャーであるプラチナバイオでの知財担当としての役割が、私の専門性を活かしながら社会に貢献できると感じたからです。特に、研究成果を権利化し、事業化に結びつけるプロセスに携わることができる点に魅力を感じました。

——今後、どのようなことに取り組んでいきたいと考えていますか？

今後は、特許や商標だけでなく、知財関連の契約書の作成や、発明発掘のプロセスにも積極的に関与していきたいと考えています。また、広島大学の研究者との連携を強化し、技術とビジネスをつなげる役割を果たすことで、より多くの研究成果を社会に実装していくことを目指しています。

——弁理士として働く上で、どのようなスキルや経験が重要だと感じますか？

法的な専門知識だけではなく、コミュニケーションやマネジメント能力も大事だと思います。私の仕事では、研究者との連携を通じて発明を発掘するため、技術的な理解だけではなく、相手の意図を汲み取る力が求められます。



(プラチナバイオ株式会社が入る広島大学イノベーションプラザ)

5. 弁理士を目指す若者へメッセージ

——合格に向けて、どのように勉強しましたか？

弁理士試験の合格に向けては、予備校のオンラインプログラムを利用し、自分のペースで勉強を進めました。短期集中での勉強を心がけ、毎日一定の時間を確保して取り組みました。特に、論文や口述試験の勉強として、条文の内容(要件・効果)や立法趣旨などを、人に口で説明できるようにする訓練をすると効果的かもしれません。話をして説明できることは筆記でもすらすら書けると思うので。

——試験勉強で苦労したことはありますか？

特に、口述試験の緊張感です。質問に答えられないと次の質問に進めないため、プレッシャーが大きく、事前の準備が大事だと感じました。また、論文試験では、出題される問題の趣旨を理解し、的確に答えることが求められるため、しっかりとした知識と準備が必要でした。

——就職や資格取得を目指す方々に対して、アドバイスやメッセージをお願いします。

まずは興味を持った分野に挑戦してみることをお勧めします。弁理士試験はハードルが高いと感じるかもしれませんが、早めに受験してみることで自分の適性を見極めることができます。また、勉強を通じて得た知識は必ず実務に役立つので、前向きに取り組んでほしいです。



(写真上部はインタビューを担当した特許庁弁理士室と中国経済産業局知的財産室の職員)

——貴重なお話をいただき有難うございました。

※本インタビューは2026年1月にオンラインで実施したものです